

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401947		
法人名	社会福祉法人 静雲会		
事業所名	グループホーム 静園		
所在地	長崎県南島原市口之津町乙3476		
自己評価作成日	令和6年9月30日	評価結果市町村受理日	令和6年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ環境の中で、入居者が安心してゆつくりと生活できる様な環境の中で支援を行っている。同法人には保育園があるために、子供たちの定期的な慰問や敬老会での交流があり、入居者と一緒に楽しんでいただいている。季節感のあるレクリエーションの企画を行い、花見や餅つき大会、紅葉ドライブなど積極的な活動支援を行っている。スタッフのスキル向上のために独自の勉強会や、資格習得のための支援を事業所として行っている。

島原半島の最南端に位置する早崎半島にあるホームで、橘湾の海岸を一望できる場所にある。周囲にはジャガイモ畑などが広がり、新鮮な農作物の差し入れもある。また、多くの魚が棲む豊かな海から獲れる魚介類も含め、新鮮な旬の食材を使用して手作りの食事を提供されている。近くで地域祭りがあった際にはホームへ神輿が訪れており、入居者と地域住民と交流する機会がある。同法人が運営する保育園児が訪問したり、近隣の高校から福祉体験実習を受け入れるなど、入居者が地域と関わりながら暮らせるよう取り組んでいる。医療面では連携する病院から医師が月8回はホームに出向いて訪問診療を行い、入居者の健康管理を行っている。静園と静雲という2つの棟があるユニットが隣接し、有事の際は職員同士が連携して入居者の安全を守るよう合同で訓練を行っている。理念である「笑顔のある楽しいホーム」づくりに職員が一体となって取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その方らしく、お一人おひとりを尊重した支援を心掛け、職員間で共有しながら支援に努めている。	理念に基づき、その方らしく、お一人おひとりを尊重した支援を心掛け、職員間で共有しながら支援に努めている。	理念である「いつまでも自分らしく、心健やかに、笑顔ですぐす、楽しいホーム」をリビングや事務所などに掲示している。毎月1回開催するフロア会議や、2つのユニット合同で開催する合同会議などで、職員自らが理念を踏まえた介護の方法を検討して支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	ホームは自治会に加入しており、回覧板の回覧や、地域の清掃作業に職員が参加するなど、日頃より地域住民の一員として関わっている。地域祭り際には神輿がホームを訪れ入居者と交流している。また、同法人が運営する保育園児による慰問や、近隣の高校から福祉体験実習を受け入れるなど入居者が地域と関わりながら暮らせるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格を持った専門員もいて、勉強会や話し合いを通じて施設内での意識向上には繋がっている。しかしながら地域に向けた活動までには至っていない。	資格を持った専門員もいて、勉強会や話し合いを通じて施設内での意識向上には繋がっている。しかしながら地域に向けた活動までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で、日常支援の取り組みについても外部の方の意見を聞くことによって、職員間の意識向上にも繋がっており、サービスの質の向上に活かされている。	会議内で、日常支援の取り組みについても外部の方の意見を聞くことによって、職員間の意識向上にも繋がっており、サービスの質の向上に活かされている。	運営推進会議には同法人理事長、ホーム長、事務長、南島原市福祉保健部福祉課総務高齢班の職員、地区代表、家族代表が参加している。会議では入居者の状況を報告や、日頃のホームの取り組みについて参加者より意見を得て運営に活かすよう取り組んでいる。	運営推進会議において、ヒヤリ・ハットや事故報告を行っているが、議事録への記載が確認できなかった。議事録は家族等の閲覧も想定されることから運営推進会議の議事録には議事内容や、各委員からの意見や質問等に関しても分かりやすく残しておくことが望ましい。

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター等には入居者空き情報なども伝え、相談などある時には密に連絡を取りながら協力体制を築けている。	包括支援センター等には入居者空き情報なども伝え、相談などある時には密に連絡を取りながら協力体制を築けている。	管理者は日頃より介護保険証の更新や、行政に関する諸手続きについて南島原市役所へ電話で確認したり、窓口へ出向きホームの実情を伝えている。空き情報は地域包括支援センターに伝えるなどホームの情報を積極的に伝え協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、今現在おこなっていない。その都度話し合いの場を設け、勉強会等も行っている。	身体拘束については、今現在おこなっていない。その都度話し合いの場を設け、勉強会等も行っている。	身体拘束について指針を定め、職員全体に周知し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。入居者の居室内での挙動を察知するため、マットレスの下に「aams」を設置し、センサーにより体動(寝返り、呼吸、心拍など)を測定し、入居者の状態をタブレット端末でリアルタイムに確認し、遠監視を行う事で入居者の安全の確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議等でも、職員間で支援についてストレスをためないように話し合いを行いながら、虐待用心として意識するように心掛けいる。	フロア会議等でも、職員間で支援についてストレスをためないように話し合いを行いながら、虐待用心として意識するように心掛けいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい内容までは理解できてはいないが、勉強会等で学ぶ機会もあり、利用者の活用については施設長や管理者が関連機関と話し合う機会を設けている。	難しい内容までは理解できてはいないが、勉強会等で学ぶ機会もあり、利用者の活用については施設長や管理者が関連機関と話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、施設長や管理者が十分に説明を行い、わかる範囲であれば職員でも対応を行っている。	契約については、施設長や管理者が十分に説明を行い、わかる範囲であれば職員でも対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にはコミュニケーションを図り、一カ月に一回はお手紙にて情報をお伝えする中で要望などにも応える機会を設け、運営にも反映している。	家族の面会時にはコミュニケーションを図り、一カ月に一回はお手紙にて情報をお伝えする中で要望などにも応える機会を設け、運営にも反映している。	入居者の意見や要望は、日頃の介護実践の中で職員が聴き取り、管理者へ報告している。家族の意見や要望については、利用料支払い時や、面会のために来所した時にホーム長や事務長が聴き取り、運営に反映するよう努めている。毎月の手紙で入居者の情報を家族へ伝え、意見を窺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議の中で、意見を聞く機会を設けている。又個別には、管理者や副管理者が意見などを聞き、施設長と対応を行っている。	全体会議やフロア会議の中で、意見を聞く機会を設けている。又個別には、管理者や副管理者が意見などを聞き、施設長と対応を行っている。	日頃より、職員からホームの運営に関する意見や提案を管理者が聞き取り、ホーム長や事務長と協議して反映できるよう取り組んでいる。また、ホーム長は賞与渡し時や契約更新時に職員と個人面談を行い、職員一人ひとりの意見に対応して運営に反映するよう努めている。	ハラスメントマニュアルを整備しているが、ハラスメントに関する相談窓口が明確ではない。職員意見の円滑な反映に繋げる為にもハラスメントの相談窓口を明確にし、研修などを通して職員が理解を深めることでより良い職場環境を整備することに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善や賞与がある。研修会などの参加を勧めている。しかし給与賃金については一般に介護の水準が低いので気持ちが落ちることがある。	処遇改善や賞与がある。研修会などの参加を勧めている。しかし給与賃金については一般に介護の水準が低いので気持ちが落ちることがある。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や、実務経験年数に応じた研修会等に参加させていただいている。また、職員が分かるように掲示板に研修会の案内について貼りだしてある。	個々の能力や、実務経験年数に応じた研修会等に参加させていただいている。また、職員が分かるように掲示板に研修会の案内について貼りだしてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会など中止が続き交流の機会は減っている。職員間の交流にも至っていない。	グループホーム協議会など中止が続き交流の機会は減っている。職員間の交流にも至っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等を知るために、入居時には何でもシートを利用し、家族にもお尋ねしながら、本人が安心して生活できるように努めている。	本人の生活歴等を知るために、入居時には何でもシートを利用し、家族にもお尋ねしながら、本人が安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心でき、利用者を任せられるように話し合いを重ねている。職員間で情報を共有しながら、家族の訪問時にはコミュニケーションを図れるように努めている。	ご家族が安心でき、利用者を任せられるように話し合いを重ねている。職員間で情報を共有しながら、家族の訪問時にはコミュニケーションを図れるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や、生きてこられた人生を大切に考え、本人ができることを見極めながら、ケアプランに添って対応に努めている。	本人の生活歴や、生きてこられた人生を大切に考え、本人ができることを見極めながら、ケアプランに添って対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを理解し、お一人おひとりに合わせた支援を考え、共同生活の中で、職員も人生の先輩として学ぶ姿勢を忘れずに支援を行っている。	本人のできることを理解し、お一人おひとりに合わせた支援を考え、共同生活の中で、職員も人生の先輩として学ぶ姿勢を忘れずに支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のご家族と利用者だけの時間を心掛け、お手紙にて日頃のご様子を知らせ、関係が途切れない支援に努めている。	面会時のご家族と利用者だけの時間を心掛け、お手紙にて日頃のご様子を知らせ、関係が途切れない支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	入居前に利用していた美容室や商店への買い物等、入居後も継続できるよう支援を行っている。入居者の友人や知人との面会や、葬儀への参列なども支援しており、入居者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を継続できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集まれるホールに、利用者同士が自然と集まり、ゆっくりとお話をされる機会がある。	皆が集まれるホールに、利用者同士が自然と集まり、ゆっくりとお話をされる機会がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了すると、ご家族とお会いする機会も殆ど無くなるが、協力医療機関等を通じて相談に乗れるように努めている。	契約が終了すると、ご家族とお会いする機会も殆ど無くなるが、協力医療機関等を通じて相談に乗れるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりできる部分はしていただき、困難な場合は、本人が負担を感じない程度に声掛け等を行い、会議等でも話し合いを行い検討を行っている。	ゆっくりできる部分はしていただき、困難な場合は、本人が負担を感じない程度に声掛け等を行い、会議等でも話し合いを行い検討を行っている。	担当職員が入居者一人ひとりと面談し、その方の思いや暮らし方の希望や意向を把握し、全職員と共有して本人本位に生活できるよう取り組んでいる。意思の表出が困難な方の場合には家族等にも確認し、本人本位の暮らしを継続できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりの情報シートを作成し、職員間で共有しながら、個々の把握に努めている。	お一人おひとりの情報シートを作成し、職員間で共有しながら、個々の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、普段と違う場合は職員間で話し合い、常に現状の把握に努めている。	日々の様子を観察し、普段と違う場合は職員間で話し合い、常に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにより評価を行い、担当者を含め、意見交換を行い、ケアプランに反映されている。家族の思いや、医療機関の意見なども反映されている。	カンファレンスにより評価を行い、担当者を含め、意見交換を行い、ケアプランに反映されている。家族の思いや、医療機関の意見なども反映されている。	ケアマネジャーが入居者へアセスメントを実施し、本人がより良く暮らすための意向を介護計画に反映している。また、入居者一人ひとりに対応する担当職員の意見や提案をケアマネジャーが聴き取り、ホーム内でカンファレンスを行う事で課題とケアのあり方について共有し、入居者が本人本位に生活できるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一枚の記録用紙に工夫されている為、職員間でも反映されている。	一枚の記録用紙に工夫されている為、職員間でも反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに添いながらも、日々の利用者の状態に応じて、柔軟な支援が行われている。	ケアプランに添いながらも、日々の利用者の状態に応じて、柔軟な支援が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しつつ、毎日の生活安全に楽しく生活できるように支援している。	地域資源を活用しつつ、毎日の生活安全に楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて、往診などの対応も行っている。医療機関とは、看護師等が連絡を図りながら支援に努めている。	本人の状態に応じて、往診などの対応も行っている。医療機関とは、看護師等が連絡を図りながら支援に努めている。	ホーム近隣の連携する医療機関より月8～10回訪問診療を行っている。入居者本人や家族が希望する主治医へ家族と連携して受診を支援している。遠方の家族など、受診の同行が困難な場合には、職員が送迎や受診の付き添いを行っている。医師から受けた指示内容は管理者や家族に伝達し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度報告を行いながら指示を仰ぎ、病院受診等で対応している。	その都度報告を行いながら指示を仰ぎ、病院受診等で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な受診等で病院と連携を図っている。入院時には、医師と相談しながら早期退院できるように努めている。	定期的な受診等で病院と連携を図っている。入院時には、医師と相談しながら早期退院できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設における重度化や終末期に向けた説明を行い同意を頂いている。現在看取りは行っていない。	入居時に施設における重度化や終末期に向けた説明を行い同意を頂いている。現在看取りは行っていない。	入居時にホームで看取りは行っていない事を入居者本人や家族に説明し、同意を得ている。主治医より終末期である旨の診断があった場合は、本人及び家族と話し合い、可能な限りホームでの介護を継続し、適宜家族と話し合う場を設けている。職員には看取り研修を行い、必要時には対応できるようホーム全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会等で、緊急時の対応について話し合いを行っている。外部の訓練には参加できていない。	施設勉強会等で、緊急時の対応について話し合いを行っている。外部の訓練には参加できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の避難訓練を行っている。火災だけではなく地震などの災害についても避難体制を強化している。地域の自治体に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家がなく、高齢の方が多いため協力を得がたいのが現状である。	年に2回の避難訓練を行っている。火災だけではなく地震などの災害についても避難体制を強化している。地域の自治体に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家がなく、高齢の方が多いため協力を得がたいのが現状である。	年2回、昼夜を想定した消防避難訓練を行っている。災害時は全ての職員が通報、消火、誘導、避難といった役割を臨機応変に実施できるよう取り組んでいる。ホームは地域の自治会に加入しており、有事の際は協力し、支え合えるよう連携の構築に取り組んでいるが、地域住民の高齢化もあり、協力は得難いとのことであった。備蓄品は同一法人内で集約して共同管理し、災害に備えている。	BCP(事業継続計画)は策定中とのことであった。緊急事態に備えて、事業を継続または早期に復旧させるための計画としてBCPの策定が必須となっており、今後、早期に策定すると共に職員へ研修・訓練を実施し、平常時からBCPを周知し、準備しておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを頭に置き、言葉かけを行い、個々の尊厳を大切に考えた対応を行っている。	人生の先輩ということを頭に置き、言葉かけを行い、個々の尊厳を大切に考えた対応を行っている。	職員は、入居者に対する声掛けは丁寧語を使用し、不快に思われないよう、ゆっくりと入居者のペースに合わせて語りかけ、傾聴するよう努めている。入居者が居室で過ごす際には、居室のドアを閉め、「aams」を活用して個人のプライバシーを守りながらも、ベッド上での安全な過ごし方を観察しながら支援に取り組んでいる。	居室でポータブルトイレを使用する入居者について、日中は居室内のトイレや共用トイレを使用しており、居室でポータブルトイレを使用していないことから、日中はポータブルトイレに布をかけて目隠しを行うなど、本人の使い勝手や介護の動線等も考慮しながら自尊心を守るための配慮が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名： 静園棟)	実践状況(ユニット名： 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が落ち着ける環境を整えながら、自己決定できるような声掛けを心掛けて行っている。	本人が落ち着ける環境を整えながら、自己決定できるような声掛けを心掛けて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時や食事時間などは、希望に添って行っているとは言い難い。しかし、一人ひとりのペースで希望を汲み取りながらの支援に努めている。	入浴時や食事時間などは、希望に添って行っているとは言い難い。しかし、一人ひとりのペースで希望を汲み取りながらの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のみだけではなく、普段より整髪や髭剃りなどの身だしなみ等には気をつけている。	外出時のみだけではなく、普段より整髪や髭剃りなどの身だしなみ等には気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどにも役割を持っていただいたり、昔流行っていた音楽を聴きながら、楽しい雰囲気作りに努めている。	食事の準備や片付けなどにも役割を持っていただいたり、昔流行っていた音楽を聴きながら、楽しい雰囲気作りに努めている。	職員による手作りの食事が提供されている。食材は地元で採れた旬の野菜や魚などを使用しており、入居者からも好評である。敬老会などの行事には豪華な弁当を準備したり、誕生日には入居者が希望するおはぎを提供するなど、入居者の要望に沿った食事を提供している。入居者は残存機能を活かし、テーブル拭きや野菜の皮むきなどを行い、食事の準備段階から楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理を心掛け、申し送り等で、職員間で情報を共有し、本人の状態に合わせた支援に努めている。	記録等に記入しながら、体調管理を心掛け、申し送り等で、職員間で情報を共有し、本人の状態に合わせた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。一人で困難な方は職員が付き添い、介助にて口腔ケアを行っている。	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。一人で困難な方は職員が付き添い、介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも、声掛けを行いながら、トイレ誘導を行い自立に向けた支援に努めている。	一人ひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも、声掛けを行いながら、トイレ誘導を行い自立に向けた支援に努めている。	トイレは全ての居室内に設置されており、入居者はいつでも自由にトイレを使用することができる。職員は入居者の排泄毎に「排泄チェック表」に記録を残し、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い、排泄の失敗を未然に防げるよう排泄の自立に向け支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄介助に努めている。また主治医と相談し、投薬による対応も行っている。	定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄介助に努めている。また主治医と相談し、投薬による対応も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を利用者に合わせるなど、入浴を楽しむ支援までは行えていないのが現状である。	時間帯を利用者に合わせるなど、入浴を楽しむ支援までは行えていないのが現状である。	週2～3回は入浴ができるよう支援している。必要があれば、いつでも入浴や清拭ができるよう取り組んでいる。入浴を楽しめるよう菖蒲湯など季節に応じた演出も実施しており、入居者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠時間や生活リズムの把握に努め、夜間帯に快適に安眠できるような支援に努めている。	それぞれの睡眠時間や生活リズムの把握に努め、夜間帯に快適に安眠できるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬がもたらす副作用などについても専門の講師を招き講習を行い理解を深めている。薬の投薬についてはチェック体制を強化している。	薬がもたらす副作用などについても専門の講師を招き講習を行い理解を深めている。薬の投薬についてはチェック体制を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お菓子やコーヒーなど個々の好みや時間帯で楽しまれ気分転換は出来ている。月に一度はお菓子屋さんに訪問してもらい楽しんでもらっている。	お菓子やコーヒーなど個々の好みや時間帯で楽しまれ気分転換は出来ている。月に一度はお菓子屋さんに訪問してもらい楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 静園棟)	実践状況(ユニット名: 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるよう出来る限りの支援に努めている。	本人の希望に添えるよう出来る限りの支援に努めている。	入居者の希望に応じてホームの庭先に出て外の景色を眺めて散歩をしたり、入居前に暮らしていた自宅近くまでドライブに出かけるなど入居者の気分転換が図れるよう支援している。近郊の原城公園に咲く桜の花見に出かけることもあり、可能な限り外出する機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に事業所にて管理しているが、家族了解の基に、ご自分で持たれることもある。	主に事業所にて管理しているが、家族了解の基に、ご自分で持たれることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に変わり、毎月のお便りにて、日頃の生活状況を伝えたり、携帯電話を使用してご家族との会話を楽しんでいる。	本人に変わり、毎月のお便りにて、日頃の生活状況を伝えたり、携帯電話を使用してご家族との会話を楽しんでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体を通じて、くつろげる環境に考慮して、時には季節感を感じていただけるような花や物を置くようにしている。	全体を通じて、くつろげる環境に考慮して、時には季節感を感じていただけるような花や物を置くようにしている。	広い共用空間の窓からは外の景色を一望でき、入居者はゆっくりと過ごされている。テーブルには季節の花を飾ったり、通路には花見や敬老会、保育園児や高校生と交流した際の写真を掲示している。二重サッシにより防音や断熱効果により冷気や熱気の侵入を防いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名： 静園棟)	実践状況(ユニット名： 静雲棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思い に過ごせるような居場所の工夫をし ている	広いホールにテーブルや椅子を置 き、利用者同士が話しやすい工夫を したり、ぬり絵やパズルなど個々に 楽しめるようにしている。	広いホールにテーブルや椅子を置 き、利用者同士が話しやすい工夫を したり、ぬり絵やパズルなど個々に 楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫を している	整理ダンス以外は、使い慣れた馴染 みの物を使用していただき、お仏壇 や姿見なども置かれている利用者も おられ、本人の居心地の良い空間と なっている。	整理ダンス以外は、使い慣れた馴染 みの物を使用していただき、お仏壇 や姿見なども置かれている利用者も おられ、本人の居心地の良い空間と なっている。	居室には入居者が使い慣れた家具やテ レビ、ベッド、仏壇や家族写真などを 持ち込むことができ、本人が安心して心 穏やかに生活できるよう工夫している。 備品の配置も入居者の動線を妨げない よう入居者や家族と検討して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかること」を活かして、安全か つできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	全室バリアフリーであり、手すりや個 人用のトイレもあり、快適に安全で自 立した生活が送れるように配慮を 行っている。	全室バリアフリーであり、手すりや個 人用のトイレもあり、快適に安全で自 立した生活が送れるように配慮を 行っている。		